

乳幼児の ワクチン接種



乳幼児は免疫がまだ十分に発達していないため、ワクチンで予防可能な病気にかかると重症化してしまうリスクが高くなっています。幼い子どもたちがそれぞれの環境や他の人々との関わりを持つようになるにつれ、深刻な病気から身を守り、保育園や教育センターなどのコミュニティにおける病気の集団発生を予防するためにも、ワクチン接種はとても重要です。

予防接種は子どもの一生を通じてさまざまな段階で推奨され、子どもが一番病気にかかりやすい時期や、ワクチンが最も強い免疫反応を起こす時期に受けるよう、慎重にタイミングが計られています。

推奨されているワクチンはすべて慎重に研究されており、麻疹、おたふく風邪、水ぼうそうなどの病気を予防するのに安全です。ワクチン未接種の場合よりも、より高い予防効果があるということが徹底的に検証され、確認されています。

最大限の予防効果を得るために、乳幼児は受けるべき予防接種をすべて受ける必要があります。特に秋や冬にかけては、子どもたちは一緒に屋内で過ごすことが多くなり、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などの呼吸器疾患が蔓延するリスクが高まることから、予防接種を受けておくことは重要です。

どのワクチンを子どもに受けさせるべきですか？

以下のワクチンは、致命的になりうる15の感染症から守るために乳幼児期(生後から6ヶ月の間)に接種することが推奨されています：

- ◆ **DTaPワクチン:** 乳児にとって特に危険なジフテリア、破傷風、百日咳を予防するために、生後2ヶ月から5回接種することが推奨されています。
- ◆ **B型肝炎ワクチン:** 発熱、頭痛、体力低下、嘔吐、黄疸、および長期的な合併症を引き起こす可能性のあるB型肝炎を予防するために、出生時から3回接種することが推奨されています。
- ◆ **ポリオワクチン:** 生後2ヶ月から4回接種することで、喉の痛み、発熱、吐き気、麻痺などの症状を引き起こすポリオを予防することができます。



乳幼児の ワクチン接種



- ◆ **MMRワクチン:** 感染力が非常に高い、麻疹、おたふく風邪、風疹（ドイツ麻疹）に対して最大の予防効果を得るために、生後12～15ヶ月の間に1回目、4～6歳の間に2回目を打つことが推奨されています。
- ◆ **水痘（水ぼうそう）ワクチン:** 発疹、発熱、化膿した水疱、脳腫脹、肺炎を引き起こす水ぼうそうを予防するために、生後12～15ヶ月の間に1回目、4～6歳の間に2回目を打つことが推奨されています。
- ◆ **インフルエンザワクチン:** 年に1回の接種が生後6ヶ月以上のほとんどの子どもに推奨されていますが、中には2回受けなければならない子どももいます。発熱、筋肉痛、極度の疲労、呼吸器感染症などを引き起こすインフルエンザを予防するために医療従事者は適切な接種回数についてアドバイスすることができます。
- ◆ **新型コロナワクチン:** 新型コロナワクチンは生後6ヶ月以上の子供に推奨されています。ワクチンは小児の新型コロナウイルス感染に関連するリスク、多系統炎症性症候群(MIS-C)を予防します。生後6ヶ月から4歳までの乳幼児は、ワクチン接種を最新の状態にするために、新型コロナウイルスの改良型ワクチンを最低1回接種することを含め、新型コロナワクチンを複数回接種する必要があります。
 - ワクチン未接種者: モデルナ社製の新型コロナウイルスの改良型ワクチンを2回、又はファイザー・ビオンテック社製の改良型ワクチンを3回接種してください。
 - 過去にmRNAワクチンを何回か受けた場合: 前回の接種回数に応じて、モデルナ社製の新型コロナウイルスの改良型ワクチン又はファイザー・ビオンテック社製の改良型ワクチンを1回か2回受ける必要があります。
 - 前回までに接種可能なワクチンを全て受けている場合: ファイザー・ビオンテック社製またはモデルナ社製の新型コロナウイルスの改良型ワクチンを1回受ける必要があります。生後6ヶ月から4歳までの乳幼児は、製品が使用できない場合や、禁忌がない限り、同じ会社のワクチン接種を受けるようにしてください（例えば、全てファイザー社製または全てモデルナ社製のワクチンを受ける）。
- ◆ **RSウイルス予防接種:** RSウイルスの流行時期（10月～3月）に生まれた、又は流行時期を初めて迎える生後8ヶ月未満の乳児は、幼児に肺炎や細気管支炎を引き起こすRSウイルス（呼吸器多核体ウイルス）から守るために、nirsevimab（ニルセビマブ）を1回受ける必要があります。RSウイルスにより 重症化するリスクが高く、RSウイルスの2度目の流行時期を迎える生後8～19ヶ月の乳幼児も1回接種を受けてください。



乳幼児の ワクチン接種



- ◆ **ロタウイルスワクチン:** 重度の下痢、発熱、嘔吐、脱水症状を引き起こすこのウイルスを予防するために、生後2ヶ月から2回または3回接種を受けてください。
- ◆ **インフルエンザ菌b型ワクチン (Hib):** 生後2ヶ月から3回または4回接種することで、髄膜炎、重篤な呼吸機能障害、肺炎を引き起こす細菌感染を予防します。
- ◆ **肺炎球菌ワクチン:** 生後2ヶ月から4回接種する事で、肺炎の原因となる複数の細菌から肺を守ります。
- ◆ **A型肝炎ワクチン:** 生後12~23ヶ月の間に、最低6ヶ月の間隔をあけて2回接種し、A型肝炎を予防します。A型肝炎は、発熱、食欲不振、黄疸、長期にわたる肝臓病、腎臓病、血液病を引き起こします。

子どもに予防接種を受けさせるには？

ワクチンについては、かかりつけの小児科医や主治医にお問い合わせください。

かかりつけ医がない場合は、<http://publichealth.lacounty.gov/vaccines> から無料または低価格でワクチンが受けられるクリニックを見つけることやワクチンに関する詳細情報を得ることもできます。

たくさんの予防接種を同時に受けることができます！そうすることでお子様が不快な思いをする回数も減り、時間を節約できます。



公衆衛生コールセンター

詳細情報は、公衆衛生コールセンターまでお問い合わせください。

1-833-540-0473 (年中無休、受付は午前8時~午後8時まで)



Los Angeles County Department of Public Health

ph.lacounty.gov/vaccines

Vaccines for Infants and Toddlers 10/20/23 (Japanese)



COUNTY OF LOS ANGELES
Public Health